

木で見直す、無垢のある暮らし。

WOOD ONE

Toward a Creative
Architectural Scene.

vol.3

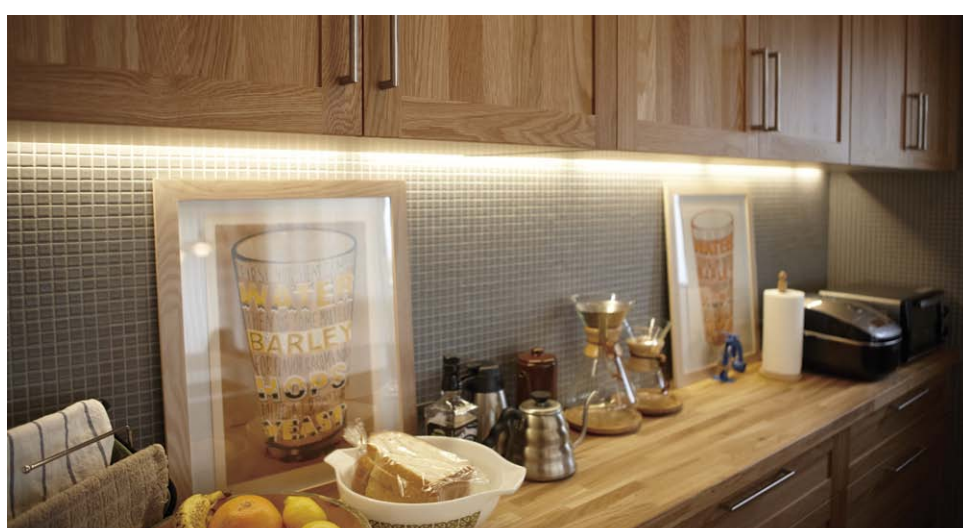




Lifestyle with su:iji
スージーのある暮らし

Case 01

使っていくことでアンティークになる、
そんな良いものと出会いたい。



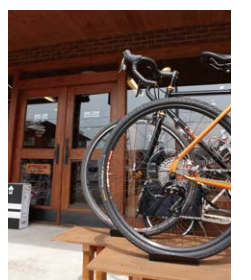


新潟県は上越市の風光明媚な場所に、首都圏から訪れる人がいるという、ファンに愛されるつづけるサイクルショップがあります。その2階が住居になっており、リフォームされる際に、スウィーのオークが採用されました。インテリアからキッチンまでご自身で選ばれたというご主人のK様にお話を伺いました。

リフォームのきっかけは、お子様も独立され、ご夫婦二人でゆったりと暮らせる様に、また、お店のお客様やご友人を招いてホームパーティができるような場をつくりたいという想いから、約2年前から計画していたそうです。家具や照明のセレクトはご主人のもので、このお店を始める迄は、東京の大手アパレルメーカーで企画部長をされていて、その時に北欧の家具や雑貨の輸入販売もされていたそうです。「新潟も雪国で、気候が北欧に似ているように思えました」とご主人。北欧の家具は、この地にも合うと思ったそうです。照明もデンマーク製のものをつけ、「実は、ここに使っているもの以外にもストックが沢山あるんです」と、北欧の温かみのある灯りの良さを語っていただきました。キッチン選びでは、ショールームなどを色々まわってカタログを集められたそうですが、どれもモダンで洗練されてはいても、皆同じように見えて、これというものがなかなか見つからなかったそうです。そこで、量販店へ行ったのですが、無垢のキッチンはありましたが「組み立て家具の域を出ていない」と感じられ、たまたまインターネットでスウィーを知り、オークが新しく加わることを知ったそうです。新潟のウッドワンのショールームに実際のものがあるということが分かり、見に行かれたそうですが、初めて見た瞬間に「これだ」という思いがあったそうです。「オークは、家具などに使われるようになるまでに100年とか150年とかかかります。今度は、それを自分が大切に使いたい」とご主人。

ご自身でも料理をされるそうで、コンロもしっかり火力のあるガスを選ばれるなど、設備の隅々にまでこだわりが行き届いています。

家具、照明、床、そして飾られているアート…。暮らす人にとっても、招かれる人にとってもくつろげる場所。そんなインテリアをK様は創られました。それでもリフォームはまだ完了していないそうで、ダイニングの外にウッドデッキを付けて内と外をつなげたり、特注の白い薪ストーブがもうすぐやってくるなど、K様の理想とされる空間づくりはこれからも続くようです。「自分が使っていくことでアンティークになっていけるものと暮らしたい。だから、良いものと出会いたい」とお話しされたとおり、一つひとつのものに、それを大切に永く使っていくことを考えた、こだわりに溢れる空間です。



K様ご夫妻。併用住宅の1階は自転車の専門店になっています。ショールームでオークのスウィーを見て「これだ」と思われたそうです。お店にもキッチンにもたくさんの仲間が集われている様子が目に浮かびます。



新潟市の中央区にある自然素材の良さを取り入れた住まいを、実際のモデルハウスで見ることができる場所。和風と洋風のモデルハウスがあり、それぞれのテイストの中で自然素材に包まれた暮らしが提案されています。今回、その洋風のモデルハウスのキッチンにスージーを採用され、そのインテリアを担当したコーディネーターのY様にお話を伺いました。もともと他社のキッチンを入れておられたのですが、少し高級感のある「大人かわいい」テイストを出したいということで、スージーにされたそうです。そのきっかけとなったのは、社長様が新宿のLIVING DESIGN CENTER OZONEにある「ウッドワンプラザ新宿」でスージーを見られ、スタッフの方が東京へ出張される際に、いいキッチンがあるので是非見てくると言われたことだそうです。実際に見に行かれたY様も「素敵でした」と気に入られ、今回の採用に至ったそうです。もともと木のキッチンにしたかったそうですが、ひとつずつパーツを調達したもので、なかなかお客様に提案しづらく、その点スージーなら安心して提供できるということが、採用の大きな理由になったそうです。このモデルハウスは家具もメープルで揃えておられたこともあり、キッチン扉の樹種も無垢のメープルにされました。天板も素材へのこだわりからクォーツストーンに。自然素材への関心が改めて高まっていますが「それよりも前から、自然素材の良さを伝えたい」という思いで、住まいの提案をしてこられたとY様が語られたとおり、木はもちろん、塗り壁やタイルなど、様々な自然素材が、その良さを醸し出しています。お客様は30代～40代が多いそうですが、中には60代の定年を迎えられた方もおられ、皆さんキッチンについては価格以上に良い印象を与られているそうです。自然素材の良さを暮らしへ届けたいという思いが、細かい部分にも表れていて、それがここを訪れた人々の気持ちに届いているようです。そして、メープルのキッチンは、納入されてから少しずつ色合いにも変化がでて、この空間に調和しながら、経年とともにメープルの味わいを深めて、暮らしの中へ届けています。



メープルの味わいが、 自然素材の家で 深まっていく。





インテリアコーディネーターのY様。無垢や自然素材をできるだけ多く取り入れた家を提案しつつつけておられ、スウィージーはお客様へとても良い印象を与えていると語っていただきました。



Lifestyle with su:iji

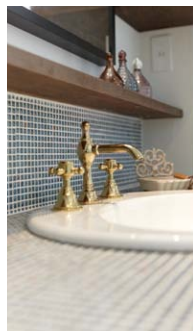
スージーのある暮らし

Case 03

人々をひきつける自然素材で、暮らしを描きつづける家。

2012年、オープンから半年あまりで多くの人々の支持を集めている、自然素材を多く取り入れた新築住宅専門の会社があります。そのモデルハウスに、スージーが採用されています。代表のA様は「一生使える様な本物の素材を使った住まいを適正な価格で提供したい」と、事業のコンセプトを語ってくださいました。そのとおり、床、建具、壁、家具、そしてキッチンにいたる迄、自然素材の風合いが家中に広がっています。母体が建材資材を販売する会社のため、材料の調達力を活かした住まいが提供できます。また、高性能住宅をテーマにされており、例えば床は、真冬でも素足で過ごせるほどの快適さ。デザインだけではなく、機能性にも、暮らしやすさへの配慮が行き届いています。モデルハウスのタイトルは「カフェド・ママン」。奥様が一日の大半を過ごす住まいで、その主役である奥様に、毎日を素敵にわくわく暮らしていただきたいというテーマです。「家族収納」「広がり間取り」「回遊動線」「楽ままライン」など独自性の高い発想が具現化され、住まいの隅々に暮らしやすさへの配慮が感じられます。インテリアへのこだわりも感じられ、奥様がインテリアコーディネーターと相談をされながら決められたそうです。

家具はすべてウォールナットで統一し、小物のセレクトはすべて奥様。細かなところに迄こだわりが感じられます。「そこに白のパイン材のスージーがはまった感じ」と代表のA様が語られるように、訪れたお客様は皆さん造り付けのキッチンと思われるそうで、「キッチンが、間違いなく人を惹き付けている」とキッチンに立たれた感じが良いと評判だそうです。また、「パーツをひとつずつ調達してキッチンをつくるのでは、提供する側のリスクやコストの問題も大きくなり、無垢総合（建材）メーカーであるウッドワンから提供され、しかも自然素材の良さが活かされたスージーは、私たちの住宅にぴったりです」と語っていただきました。お客様は若い方なら25歳くらいで、30代の方が多くそうですが、そんな人々の共感とあこがれを集めるセンスが、キッチン、造り付けの洗面台、タイル、アンティークガラスなどに表れ、お客様を一通りご案内して戻ってくると、すっかり意気投合。それは、暮らしの視点で、これからの人生をともに描く様なひと時。だからこそ、永く使える本物の素材を提供したい。そんな想いが溢れる家。



代表のA様ご夫妻。「永く使える本物の素材に触れながら暮らせる家をお届けしたい」と、お二人のセンスが、こだわりの住まいを求める人々の心を捉えています。

無垢のキッチン SU:iji 【スイージー】



優しい風合いと、
重厚な落ち着き。 Walnut

【標準I型キッチン】
メーカー希望小売価格 ¥876,900～



素朴にさわやかに。
居心地のいい家。 Maple

【標準I型キッチン】
メーカー希望小売価格 ¥736,500～



シンプルだけど温かい。
お気に入りの北欧風。 Pine

【標準I型キッチン】
メーカー希望小売価格 ¥658,000～



洗練された寛ぎと
広がりを感じる空間。 Oak

【標準I型キッチン】
メーカー希望小売価格 ¥736,500～

木のある紀行 ①



新潟に古町という繁華街があります。
そこは、かつては映画館や老舗料亭が並び、
遠く江戸時代から賑わいを見せていたところ。
周辺は古町通りと並行する「通り」と呼ばれる街路と
それに直行する「小道」がめぐらされ、
その名の通り懐かしい風情を漂わせています。
「今は、すっかり静かになってしまってます。」
小道の一角にある、長年つく料亭の女将が話す。
出される料理の一つひとつが、
自然の恵みへの恩恵すら感じさせる素晴らしいもので、
新潟の酒を際立たせ、また調和して、彩りを加えていきます。
常連さんが食べていた「山菜の天ぷら」が気になり、同じものを。
これが柔らかく、風味が深く、
素材の良さが口の中を巡っていきました。
「はさみで切って取ったものはだめ。手で摘んだものが美味しいの」
手で摘めるようになった山菜だけが、
食べることを許されているかのようです。
それとも、人の手を持つ不思議な力のせいでしょうか。
食材も自然の恵み、生命の巡り。
その摘み方で味が変わるという話が似合う、
無垢な時間が過ぎていく。

スイージー取材物件 募集中

詳しくは弊社営業までお問い合わせください。

スイージーから始まる暮らしのスタイルは本当に様々です。この誌面では継続して「スイージーのある暮らし」をご紹介していく予定です。引き続き、無垢のキッチン、スイージーの取材物件を募集しています。



vol.1
スイージーの3つの
納入実例を掲載。
断熱リフォーム
「+ ECO Reform」
の紹介。



vol.2
スイージーの2つの
納入実例を掲載。
無垢の床マット
「びたゆか」の紹介。

バックナンバーも
ご用意しています。

